



極北の夜空を彩るオーロラ

坂本昇久 (自然写真家)

東てついた極北の夜空を舞うオーロラ。ときに青く、ときに赤く、全天に広がる光の芸術だ。太陽は大量の電子と陽子を放射しており、それは「太陽風」とよばれる。オーロラの光は、太陽風が地球の磁場に捕らえられ、大気中の原子や分子と衝突することによって発せられる。地球上でオーロラが最もよく見える場所は、地磁気緯度にして65~70度のドーナツ状の地域で「オーロラ帯」とよばれる。北半球では、シベリアの北極海側からスカンジナビア半島の北、グリーンランドの南端、カナダ北部からアラスカの真ん中を通っている。

1991年8月、私はカナダからアラスカへ向かう旅の途中、初めてオーロラを見た。その神秘的な美しさに魅了されて写真を撮り始めるようになり、1年に数回、カナダのイエローナイフを訪れる生活を続けている。イエローナイフを拠点とするのは、オーロラの見える条件がいいだけでなく、そこに住む人々と波長が合って居心地がいいからだ。日本にいて夜空を見上げていると、居ても立ってもいられなくなることがある。気がつくと、極北行きのチケットを手にしているのだ。今年もきっと、オーロラを屋根にして眠りにつくことだろう。

R8 | January 2006 | volume 3 NATURE DIGEST 日本語編集版 ©2006 NPG Nature Asia-Pacific